



研究テーマ

本学のユニバーサルデザインの推進に関する研究

目的・概要

UD に関わる研究・開発ならびに情報発信を行い、特に地域における UD の推進に寄与する。本学教員の持てる能力を総合的に組み合わせることで社会からの要請に応えることができることから、課題に対して積極的に提言を行う。

期 間

平成 25 年 4 月 1 日 ～ 平成 26 年 3 月 31 日

研究担当者

(空間造形学科) 古瀬 敏、(文化政策学科) 林左和子
(生産造形学科) 谷川憲司、永山広樹、高山靖子、迫秀樹
(メディア造形学科) 的場ひろし

スケジュール

- 2013 年 4 月 光村図書の国語教科書利用の有無による UD 理解の差についてアンケート調査
- ↓
- 2013 年 5 月 アンケート、ほぼ回収済み、秋にかけて集計
- ↓
- 2013 年 7 月 Include2013 in Asia で過年度の研究成果（交通手段と買い物について）を発表
- ↓
- 2013 年 11 月 教科書の UD 教材に関する集計結果をまとめて UD2014（スウェーデン、ルンド）に投稿

研究 成 果

今では多くの日本人が UD という言葉を知っている。これは政府や自治体が努力しているからであるが、同時に教育においても教える試みがなされている。本学では UD が教育理念の一つとなっているが、それ以前の教育段階でも最近では UD を教えるようになってきている。その早い例は古瀬敏が小学校 6 年生の国語教科書に提供した教材であるが、それを教わった効果はどの程度あるのだろうか、これを他の教科書を利用した子どもたちと比べて比較検討する調査を続けて実施した。その結果、自治体が UD を標榜していても、なかなか伝わらない場合があることが判明した。また、中学校において車いすからみたまち、あるいは視覚障害者の視点を取り上げた教材が別の教科書会社で用いられており、それらが UD として記載されているため、UD の概念が障害に強く結びつけられている気味がありそうなこと、がわかった。この辺の関係について、もう少し検討が必要であろう。

今後の研究成果の還元方法

利用教科書による UD 理解の違いについて、さらに追加調査を行っており、もう少し詳しい事情を把握する。さらに、さまざまな場所での UD 実践情報を入手することで、今後の展開に反映できるようにしたい。

(注記：写真について) なお、既存の構築物に上下移動手段を新たに加えるには困難がともなうが、4 枚の写真のうち後ろの 3 枚はそうした努力がなされている事例である。